

## ロータリーの歴史に学ぶ

PETS&地区チーム研修セミナー資料

RID2710 PDG 諏訪 昭登

### ●先人の至言

歴史を知らずして現在、未来を語ることはできない。

— ロータリアン ウィンストン・チャーチル —

我々が歴史を学ぶのは単に過去を追憶するためではない。過去を学ぶことによって正しく現在を認識することができるのであり、現在を正しく認識することによって初めて未来を正しく展望することができる。歴史を学ばない者には現在及び未来を語る資格はない。

—ウィリアム・メイトランド ケンブリッジ大学教授—

先人達の積み重ねた過去を探求し、その中から課題を見いだして鼓舞され、行動に移すことで過去は序幕となる。

— 大詩人バードの言葉をハーバート・テラーが引用 —

### ●歴史的考察から“Ideal of Service”の真意を探る

ロータリーで最も重要な言葉である“Ideal of Service”（奉仕の理念<理想>）の真意は、歴史的考察なくして解明できない。

歴史考察の4W = When、Where、Who、What を念頭に。

#### 1. “Ideal of Service”の真意解明のための歴史的考察 —邦訳の歴史—

- ・ 1920年、東京RC創立により日本へ導入されたロータリーにおける“service”は、その原語に対する適訳が日本語に存在しないため、創始者である米山梅吉をはじめとする先達はこれを「サーヴィス」、「Ideal of Service」を「サーヴィスの理想」と訳したりしている。他にも、サービスの観念、ロータリー精神などあり。
- ・ 1937年頃、軍国化進行のためやむを得ず“service”を「奉仕」、「Ideal of

Service”を「奉仕の理想」と訳した。しかし、“Service” = 「奉仕」ではなく、「滅私奉公」的なニュアンスが漂う「奉仕」に対し、原語たる英語の“service”は水平的思考を意味する語である。サービスとは人のために役に立とうとする善意の表明語。Service, Not Selfが「超我の奉仕」と訳されたことも誤解のもとになった。Service Above Selfとなったところで「サービス第一、自己第二」（米山梅吉）のように訳したら良かったのではないか。

「ロータリーは決して人に犠牲を強いるものではない。自分というものがあっての上で世の中へのサービスだ。」（第三代ガバナー 村田 省蔵 1933-35）当時の定説。

## 2. “Ideal of Service” の真意解明のための歴史的考察 —ロータリー発祥の地アメリカからの考察—

- 1905年、ポール・ハリスは3人の仲間と共にロータリーを創立（シカゴRC）。親睦と職業上の相互扶助を目的として始まったが、翌年にはそこに社会への貢献が加わった（ドナルド・カーターの進言による）。シカゴ市内2カ所に公衆トイレを設置(1909年)。
- 1908年、P.ハリスが三代目会長であった時、A.フレデリック・シェルドンとチェスリー・ペリーが入会。シェルドンは、business（商売、経営）はservice（サービス）の科学であるから、職業人の集まりであるロータリーの哲学はserviceの哲学であるべきだと強調。ハリスはこれに大いに賛同してシェルドンをPublicity and Extension Committee委員長に任命し、シェルドンの考えをロータリーの宣伝と拡大のために急進的に推進したが、一部会員の反感を買い、親睦派と奉仕派との対立を惹起してハリスとシェルドンは年度途中で辞任した。
- 1910年（第1回シカゴ大会）、ハリス、シェルドン、ペリーは、シカゴRCでの推進を断念し、全米RC連合会（National Association of Rotary Clubs of America）を組織した（ハリス会長、ペリー事務総長、シェルドン Business Method Committee 委員長）。シェルドンは祝宴の中で、businessの科学はhuman serviceの科学であると語り、“He profits most who serves his fellows best.”と自身の職業観を表現したモットー（標語）を発表して多くの賛同者の拍手を得た。最初の綱領（Objects）発表、親睦を削除。

- 1911年（第2回ポートランド大会）、シェルドンはペリーの代読で **business** の科学は **service** の科学であると述べ、“**He profits most who serves best.**” と修正した標語を含む「私の宣言」を発表し、満場の拍手を得た（この標語は大会の「ロータリー宣言」の結語として採用され、その後は職業奉仕理念と解釈され、1950年に公式標語となっている）。また、ミネアポリス RC のフランク・コリンズが大会の小旅行企画の船上で語った “**Service, Not Self.**” については後日機関誌で発表するとの付言があった。（ポール・ハリス）
- 公式機関誌 “**The National Rotarian**”（1911年1月号）が創刊され、“**Toleration**”（寛容）を強調したポール・ハリスの論文 “**Rational Rotarianism**” が掲載されている。1911年11月号には “**Service, Not Self.**” が掲載されたが、この標語はその解釈について問題を抱えながら1920年に “**Service Above Self.**” と変更され（手続要覧）、人道的奉仕理念と考えられて1989年から第一標語となっている。（コリンズの論文をよく読むと、**Not Self** は決して宗教倫理ベースではないことがわかる。）
- 1912年（ドゥルース大会）、全米 RC 連合会は国際 RC 連合会（**International Association of Rotary Clubs**）と改称（グレン・ミード会長）。「ロータリー宣言」の結語として “**Service is the basis of all business.**” が追加（スローガンと呼称）。親睦と相互扶助を目的から一掃する RC 綱領に初めて “**service**” という語が出現した。
- 二つの標語は二つの奉仕理念とされ、宗教倫理派と実業倫理派によるロータリー理念の構築が熱烈に論議された歴史が続く。
- 1915年（サンフランシスコ大会）、理論及び教育委員会（**Committee on Philosophy and Education**）のグレン・ミード委員長が委員会報告の中で、“**Spirit of Rotary**”（ロータリー精神）を二つの局面すなわち **economic side**（経済的側面）と **altruistic side**（利他主義的側面）に分類して解説し、初めて “**Ideal of service**” という語を使用した。それは、**business** 生活において我々の仲間に **high ideal of service** を、そして人類全体にも与えられないだろうか、という語り口であった。
- 1916年（シンシナティ大会）、グレン・ミードの後任者であるフィラデルフィア RC のガイ・ガンデイカーは、前年度に採択された道德律（**Code of Ethics**）を含むロータリー最初の教育書 “**A Talking Knowledge of Rotary**”（ロータリー通解）

を刊行し、“Service, Not Self.”の立場でロータリー精神を解説した。シェルドンの標語にある“profit”については、シェルドンの考えに反して優れた service をすることに関して与えられた機会であると言明した。

- 1918年（カンザスシティ大会）、連合会の綱領に初めて“ideal of SERVICE”という語が使われた。これによって、それまで“Spirit of Rotary”や“Unselfish slogan of Rotary”など様々な表現で語られてきたロータリーの基本理念を表す用語が正式に決定したといえる。
- 1919年（ソルトレークシティ大会）、ジョン・プール会長は、“Service, Not Self.”を初めて“Service Above Self.”と変えて演説し（これが“Service Above Self.”の初出？）、“He Profits…”と共にロータリアンの将来をより大きな usefulness（有用性）の世界に導くものであると表明した。（1912-18年においては not self が使われていたが、above self への変遷が徐々に進んでいた。）
- 1920年（アトランティックシティ大会）、手続要覧に正式に Service Above Self と表明された。F. コリンズが死去。
- 1921年（エジンバラ大会）、シェルドンが「ロータリー哲学」というテーマで演説し、主に英国での profit 反発に対する説明を行った。彼は profit を徹底して「利潤」としながらも、標語全体の意味はキリスト教理の黄金律（マタイ伝第7章第12節）と同じであると語って喝采を得た。（1913年のバッファロー大会でも同様の発言があった。）この大会をもって“Service, Not Self.”はほぼ全般的に“Service Above Self.”と変更されたと考えられている。しかし、その後しばらくは“Service before self.”という語と共に語られていた記録も存在している。なお、この年度の手続要覧に新たに Rotary Motto という項目が加わって、「He Profits … が一般的にロータリーモットーとして使用されている。また“Service Above Self – He Profits Most Who Serves Best”という形式でも使われている」とある。
- 1922年（ロサンゼルス大会）、連合会は国際ロータリー（Rotary International）と改称。RCの連合組織体として確実なスタートを切った。
- 1923年（セントルイス大会）、1915年あたりから急激に拡大した人道的奉仕活動（身体障害児協会）への批判と対立は紛糾し、その収束の努力が決議 23-34号として結実した。ここで、“Ideal of service”はロータリーの哲学・人生の哲学を表す用語とされ、二つの標語として確定した“He Profits…”と“Service Above

Self.” がその実体を構成するものであると認識された。

- かつて“**Ideal of service**”を説明する正式な文章はないと言われていたが、唯一、2008年版までの**Official Directory**（公式名簿）の巻末にチェス・ペリーによると言われる一文があった。そこには、the “**ideal of Service,**” which is **thoughtfulness of and helpfulness to others** とあり、これは1954年3月にオクラホマ州タルサRCでペリーが語ったものと思われる。“他者に対して思いやりと手助けを”という表現は **above self** へ傾いた表現で、当時の傾向が表れている。なお、2009年版からは“**ideal of Service Above Self**”と作者不明のフレーズが載っている。

- さらに他の資料を調べてみると、次のようなことが判明した。  
1927年、**Aims and Object Plan Committee**（目標設定委員会）は初めて四大奉仕部門を設定するプランを発表・採択した。その1931年版RI公式パンフレットの「職業奉仕」の部分で、次のような説明がある。（英語版 p.24）

「ロータリーでは奉仕の理想（**ideal of service**）の意味について様々な表現が行われた。『“**Service Above Self**”、“**He Profits Most Who Serves Best**”、“**thoughtfulness of others**”（他者への思いやり）、“**most of all treating as one would like to be treated**”（自分にして欲しいことを何よりもまず他者に与える）』がある。」

これが最初の正式な説明であり、当時の **ideal of service** の解釈と考えるとよい。黄金律が宗教的立場から離れて **ideal of service** の根底に常に置かれている。（1918年に連合会の綱領に初めて登場して以来の **ideal of service** がこのように説明された。）

- **Ideal of Service** は以上のような歴史を辿ってロータリーの基本理念として確定したが、その後1950年（デトロイト大会）にはその構成要素である二つの標語が正式にロータリーモットーとして採択された。
- 1989年2月、規定審議会は“**Service Above Self**”を第一標語とする決議を行った（89-145）。“**He Profits...**”も引き続き公式標語として残すものである。日本最初の手続要覧日本語訳（1956年）には“**He Profits...**”を「最善奉仕最高応報」とある。2年後（1958年）からはほぼ現在の訳文となった。
- 1984年から二つの標語を中心理念としている決議23-34の削除提案が度々提出さ

れたが、その都度否決されている。時代変化を反映するものとは言え、ロータリーの哲学を表現した **Ideal of Service** を意味する「人生の哲学」を規定した 23-34、特にその第一項目を削除することは決してあってはならないということが、2010年の規定審議会で改めて決議され、理事会も採択している（10-182）。

## ● 結び

以上のように歴史的沿革を理解すれば、二つの標語はその軽重を論ずることなく同意義のものとしてワンセットで語られるべきことは明確であることがわかる。特に、“**He Profits Most Who Serves Best.**” が原点的出発であることは銘記すべきであろう。

（2010年から“**One Profits Most Who Serves Best.**”に変更された。）理念なき行動は盲動となる危険をはらむ。実践法則は時代の変化につれて慎重に改変する必要があるが、ロータリーの基本理念 **Ideal of Service** は決して変えてはならない。

皆様個人も、そしてクラブでも、このあたりについて歴史的沿革も学びながら真面目に論議されてはいかがでしょうか。（小生編集の「ロータリーの歴史年表」もご覧ください。）

2015年3月22日